

令和 5 年度主な事業報告

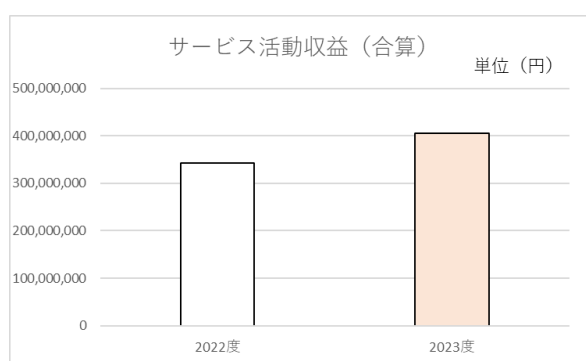
社会福祉法人 海光会

社会福祉事業

サービス活動増減の部

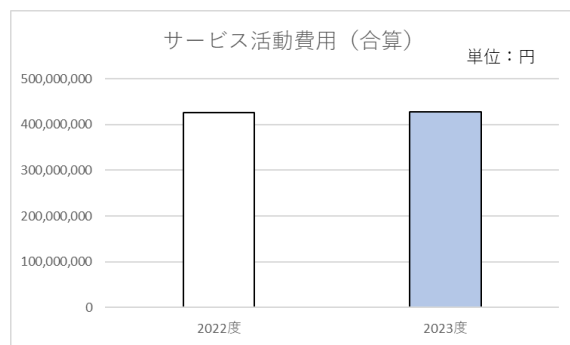
○サービス活動収益 405 百万 前年比 118%

全事業所で復旧を目指し取り組んだ結果、前年比較で約プラス 6 千 2 百万円となった。昨今の介護保険改正では、加算取得により収益があがる構造になっている。サービスの質向上により収益確保につなげていく。



○サービス活動費用 427 百万円 前年比 101%

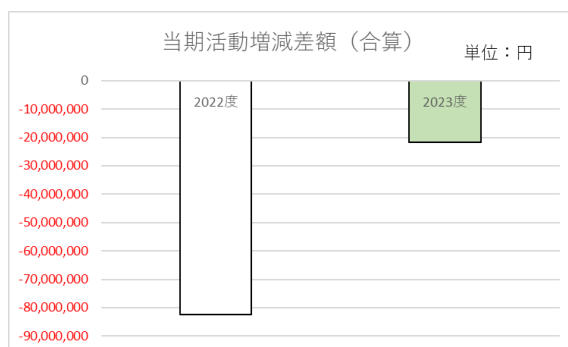
物価高騰によりコストが上昇している。定期的を使用する消耗品などは常時価格を比較し、最適なものを選定しながらコスト削減に努めた。施設整備も積立金を充て、計画的に施設保全が実行できている。



サービス活動増減差額

○当期活動増減差額 ▲21 百万 前年比 (赤字 73.7%減)

昨年度から比較するとプラス 60 百万円プラスに転じている。サービス収益額がそのまま収支差額のプラスとなり、赤字額は回復基調であると言える。各事業所の稼働率を上げることで確実に収支の改善につながる事が予測できる。



【法人事務局】

「復旧と再開」を合言葉に社会情勢を見ながら運営内容の見直しを試みた。各事業所においては、目標値を満たさないまでも待機者見込みがあり、幸先は見通しが立っている。人員体制は前年度入職者多数により新人が多めの状態であるため、各事業所による OJT を確実に実行そして熟練者からの伝承が課題である。サービスそして生活の質は人の質であるという特性から配置は適材適所を行い、明確な評価を実行することで、持続ある事業へつなげていく。

【特別養護老人ホーム】

コロナ禍で低迷した稼働復旧を目指すなかで、対面による面会やケース会議を再開できたことは喜ばしい出来事の一つであった。また、施設内行事も「食」を中心に再開し季節イベントのおやつや地産地消の取り組みなど生活の楽しみにつながる活動を増やすこともでき、少しずつ活気を取り戻している。稼働は来年度上期中の達成をめざす。

【短期入所生活介護事業所】

稼働率を向上させるために入所者の受け入れを増やしてきた。昨年度比較で稼働率は 131% となり、順調に稼働域を伸ばしてきた。需要が高い一方で、入所の待機事業所となる側面もあることが課題である。併設事業所の強みを活かし、在宅事業所内での丁寧な情報共有と連携により顧客満足度をあげ、継続的な利用につなげていく。

【通所介護事業所】

2023 年度は定員を 30 名から 25 名に縮小変更し、稼働目標を一日平均 19 名とした。新規受入れを積極的に促進した結果、契約数を前年実績の 3 倍を達成することができた。2024 年度は、毎月新規顧客を着実に増やすためにも新サービスを企画しながら居宅支援事業所へ提案、そして利用者が在宅生活を継続できるよう訪問や短期入所と連携してサポートしていく。

【訪問介護事業所】

「在宅生活継続」の為、自立支援を基本にサービス提供を行った。稼働実績は、職員 1 名増加となったため目標件数を上方修正し達成を目指したが、達成率は 82.6% であった。定期的な研修を実施し、ヘルパーの知識向上に努めていく。

【軽費老人ホーム】

年間を通して満床を維持している。レクリエーションやイベントを徐々に再開し、入居者同士の人間関係構築や活動量増加に繋げている。8 月に初めて、新型コロナウイルス感染者を確認したが、感染拡大することなく最短日数で収束している。これは、リスクに対し優先的に対応したことが功を奏した結果である。今後も入居者の安全を第一に取り組む。

公益事業

なし

収益事業

なし

以上